

自治研は仕事に活かせますか？ どうやって活かすのですか？

回答
自治研マイスター

「自治研」とは「地方自治研究」の略で、それだけを見れば研究者や専門家による「研究」と捉えられがちです。実際の活動も研究会を招いた講演会の開催であったり、論文の載った冊子の発行であったりする場合も多く、一般の組合員さんにとつては、せっかく自治研の集会などに参加してもなかなか「自分たちの仕事」との関連が見つけにくい嫌いがありました。

そこで二〇一四年一〇月に、佐賀市で行われた「佐賀自治研集会」では、全体会のテーマを「毎日の仕事の、ちよつと先。さがしてみよう、わがまちの未来」とし、厳しい職場環境のなかであえて地域に出て、住民の皆さんとともにまちづくりを考えていこうという提起がなされました。また、分科会のひとつでも組合員によるワークショップが行われ、職場の悩み、地域の困り事から自治研活動の「たね」を見つげるための発想法を学びました。

しかし、仮に自治研を「住民を巻き込んだまちづくり活動」

と捉えるならば、それは今、各地でさかんに行われているようなNPO活動や市民活動とどう違うのでしょうか？

私たちは（立場の違いこそありますが）、公共サービスに携わる労働者です。まさにその仕事自体が市民生活に、まちの未来に直結しています。仲間と連携しながら、さまざまなサービスを生み出し、地域に直接働きかけることのできる職種であるということをもう一度思い起こしましょう。

ですから「自治研」をしてそれを「仕事」に活かすという順番ではなく、逆に公務労働者として仕事を改革し、市民の幸せを見つげるために「自治研」を活かそうという発想が必要ではないでしょうか？

自治研には、難しい理屈も、上司への根回しも必要ありません（笑）。誰でも参加できます。先輩方が培った豊かな研究事例もあります。そうした便利なフィールドを活用しない手はありません。そう。自治研は、あなたの明日の仕事のためにあるのです。

事例 夏休みの子どもたちに 学校給食を

——福井県越前市では、夏休み期間の学童保育を対象に「学童ランチサービス」を実施しているそうですが、そのきっかけは？

児童センターなどで行われている学童保育には、夏休みにも多くの子どもたちが来ます。「夏休みだからといって保護者が家にいて、ご飯を作っているかといっ

たら、そうではないだろう。それなら夏休みにも給食を提供してあげることほできないのか」そんなことが給食調理員さんたちの職場で話し合われました。実際、学童保育に來ている子どもたちは毎日弁当を持参しており、保護者から給食の要望も多かったことから、調理員がプロジェクトを立ち上げ、組合の自治研活動の一環として取り組みを始めたことがきっかけとなりました。

——すぐに実現できたのでしょうか？

市は、児童センターの運営を社会福祉協議会に委託していました。調理員さんの所属は教育委員会、学童保育の費用の負担は児童家庭課と、所管が分かれていていろいろな課題がありました。それ

をコーディネートしたのが職員組合です。上記担当部署と組合の現業支部が一緒になって実現の方法を考えました。その結果、二〇〇六年七月に学童ランチサービスの試験的实施が行われる運びとなりました。

——その後の展開は？

三年目以降、市の正式な事業として学童ランチが提供されています。組合ならでは、自治研ならではの取り組みが施策に活かされた好例ですが、何よりも保護者の皆さんから大変喜ばれているというのがうれしいですね。

（回答者 丹南市民自治研究センター
地域政策研究所所長・伊藤藤夫）

職場での話し合いから誕生した「学童ランチサービス」。日頃から職場の仲間と仕事についている議論ができる関係性があるというのも大事なことだワン。

